保存修復技術の国際的応用に関する研究〔コ03〕

研究組織　加藤雅人、前川佳文、安倍雅史、牛窪彩絢、ヴァルエリフベルナ（以上、文化遺産国際協力センター）、朽津信明、犬塚将英（以上、保存科学研究センター）、水谷悦子（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）

目　　的　文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。本プロジェクトでは国内の専門家及び諸外国の研究機関とネットワークを構築し、壁画をはじめとする不動産文化財を中心に、保存修復技術の最新動向を踏まえた基礎的・基盤的研究を行うことを目的とする。また、得られた成果は文化遺産国際協働の場で応用し、保存修復技術発展への貢献を目指す。

成　　果

1. ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁及び壁画の保存に向けた調査研究と技術指導
当初計画では、7月と1月に同遺跡Me-taw-ya寺院及びLokahteikpan寺院での現地専門家を対象とした人材育成事業及び保存修復事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から当初計画を変更してオンライン会議を開催し、維持管理に係る助言を行った。また、これまでの活動成果の一部をまとめて出版した。（オンライン会議：2021（令和3）年4月24日、6月6日、7月3日、9月11日、12月19日、2022（令和4）年2月19日）
2. スタッコ装飾及び塑像に関する研究調査
当初計画では、6月と10月に地中海沿岸地域での調査を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からこれを延期し、欧州専門家とのリモートによる意見交換会を年3回開催した。また、緊急事態宣言が解除された10月より、国内のスタッコ装飾を対象にした調査を行った。（意見交換会：2021（令和3）年5月29日、7月31日、9月11日）
3. 壁画断片の保存修復方法に関する研究
様々な要因で剥離・剥落した壁画断片の保存修復方法について、新たな技法の開発を目標にした各種実験研究を行った。
4. トルコ・アンカラ ハチバイラムヴェリ大学（AHBV）との壁画保存修復に係る共同研究に向けた合同会議（オンライン会議：2021（令和3）年12月15日）

論　文

- Maria Letizia Amadori, Yoshifumi Maekawa, et al.: Organic Matter and Pigments in the Wall Paintings of Me-Taw-Ya Temple in Bagan Valley, Myanmar , MDPI 21.11

発　表

- 前川佳文、ダニエレ・アンジェロットほか：「ミャンマー・バガン遺跡における複合文化財として捉えた煉瓦造寺院の保存修復」日本文化財科学会第38回大会　21.9.18-19

刊行物

- 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所／前川佳文、鴫原由美『世界遺産ミャンマー・バガン遺跡　華麗なる壁画の世界』雄山閣　21.11
- 『スタッコ装飾及び塑像に関する研究　令和3年度成果報告書』東京文化財研究所　22.3